

入試分析 社会

【総評】やや易くなったが、得点差はつきやすい！

完全解答の問題が増えて、確実に知識を身につけていないと正解することがより困難に！

①は3分野の小問集合、②は世界地理、③は日本地理、④が歴史、⑤が公民、⑥が分野融合問題という構成は今まで通り。ただし、複数の解答の完全正解が必要な問題が11問に(昨年度は8問)に、記述問題も3問に(昨年は2問)増えた。問題自体の難度はやや下がって上位生の正答率は上がったが、中堅・下位生の正答率はむしろ下がったのではないかと思われる。

【出題例】② 問3 この問題を瞬時に解くにはどこを見るべき？

【問題分析】

① 3分野融合(1問5点×3問=15点)

問1は地形図に見られる地理的特徴を選ぶ問題。問2は戦国大名が出した法令を選ぶ問題。問3は衆議院総選挙後の国会を選ぶ問題。いずれも基本問題。絶対に落とせない。

② 世界地理(1問5点×3問=15点)

問1は標高が高くコーヒーで有名な国を地図から選び、その気候を示す気温図も選ぶ完全解答の問題。問2は地図にある4つの国について、それぞれの説明文を選ぶ完全解答の問題。「とうもろこし」「オリーブ」「タロイモ」「米」で答えがほぼ確定。問3は与えられた説明文に合う国と、その国から日本が輸入する農産物・その国の貿易相手国を示す表を選ぶ完全解答の問題。「ポルダール」でオランダとわかれば、貿易相手国がEU内に多い表を選ぶことで瞬時に正解できる。一見難解そうに見えるが、いずれも基本問題だ。

③ 日本地理(1問5点×3問=15点)

問1は地図にある4つの県について、それぞれの説明文を選ぶ完全解答の問題。県ごとの地理・文化・経済の知識が必要。問2は与えられた説明文に合う県と、その県の人口・他県への通勤通学者数・製造品目を示す表を選ぶ完全解答の問題。国内最大規模のコンビナートは京葉工業地域=千葉県だが、瀬戸内工業地域と勘違いすると正解できない。問3は記述問題。「日常生活の機能の利用」という問いに惑わされず、表から移動方法の変化に着目しなければならない。与えられた情報から思考して、初めて都立高入試の記述問題は正解できる。

④ 歴史(1問5点×4問=20点)


問1は4つの説明文を歴史順に並べる完全解答の問題。中国の王朝だけでわかるのでこれは簡単。問2は記述問題。河村瑞賢の東回り航路・西回り航路の、年貢米の輸送経路と寄港地の役割を説明する問題。これは資料をそのまま説明すればよい。問3は江戸後期～昭和初めを4つに分けたそれぞれの時期に合う説明文を選ぶ完全解答の問題。これも問1と同様、選択肢の説明だけでわかるので簡単だ。問4は戦後を4つに分けたそれぞれの時期に合う説明文を選ぶ完全解答の問題。これも説明文だけで選択肢の説明だけでわかってしまう。ただ中学校で戦後史を細かく教えてくれたのか。例年、歴史は地理や公民と比べてかなり易しい。北進でしっかり勉強して、確実に正解したい。

⑤ 公民(1問5点×4問=20点)

問1は平等権についての憲法条文を選ぶ問題で、答えはみんなが知っている簡単な問題だ。問2は与えられた説明文に合う一般会計の歳入項目と、その項目に合う説明文を選ぶ完全解答の問題。「間接税」「段階的に税率が引き上げられ」から消費税とわかれば、選択肢の説明文も容易に選べる。問3はSDGsを国際的に同意した時期を選ぶ問題。冷静に考えれば常識的に正解できる。問4は記述問題。成年年齢の引下げに関して、「国の若年者に対する期待」を資料から読み取る問題。公民も昨年と比べて易くなったが、常識を知らないとい問か落とすかもしれない。

⑥ 分野融合問題(1問5点×3問=15点)

問1は地図にある4つの国について、「黒田清輝」「森鴎外」「夏目漱石」「野口英世」が活動した国をそれぞれ選ぶ完全解答の問題。キーワードをもとに選んであとは消去法。問2は世界金融危機後の会議(の年)を選ぶ問題。問3は州別の国際連合加盟国数の推移を示したグラフから説明文に適する州を選ぶ問題。「1960年」でピンと来るはず。横断して関連付けられる柔軟な学習を早いうちから心がけたい。

【問3】 次のⅠとⅡの表のA~Eは、略地図中に  で示したW~Zのいずれかの国に当てはまる。Ⅰの表は、2001年と2019年における日本の輸入額、農産物の日本の主な輸入品目と輸入額を示したものである。Ⅱの表は、2001年と2019年における輸出額、輸出額が多い上位3位までの貿易相手国を示したものである。Ⅲの文章は、略地図中のW~Zのいずれかの国について述べたものである。Ⅲの文章で述べられている国に当てはまるのは、略地図中のW~Zのうちのどれか。また、ⅠとⅡの表のA~Eのうちのどれか。

年	農産物の日本の主な輸入品目と輸入額 (百万円)			
	品目	輸入額	品目	輸入額
A	2001年	226492	植物性原材料	18245
	2019年	343195	豚肉	17734
I	2001年	5538	羊毛	210
	2019年	3017	牛肉	1365
U	2001年	338374	とうもろこし	12069
	2019年	559098	果実	7904
E	2001年	1561324	パーム油	14952
	2019年	1926305	パーム油	36040

年	輸出額 (百万ドル)	輸出額が多い上位3位までの貿易相手国		
		1位	2位	3位
A	2001年	169480	ドイツ	イギリス
	2019年	576785	ドイツ	ベルギー
I	2001年	2058	ブラジル	アルゼンチン
	2019年	7680	中華人民共和国	ブラジル
U	2001年	27928	アメリカ合衆国	イギリス
	2019年	89396	中華人民共和国	ドイツ
E	2001年	88005	アメリカ合衆国	シンガポール
	2019年	240212	中華人民共和国	シンガポール

(国際連合「貿易統計年鑑」2020年より作成)
この国では農業の機械化が進んでおり、沿岸部の砂丘では花や野菜が栽培され、ポルダールと呼ばれる干拓地では酪農が行われている。
2001年と比べて2019年では、日本の輸入額は2倍に届いてはいるが増加し、輸出額は3倍以上となっている。2019年の輸出額は日本に次ぎ世界第5位となっており、輸出額が多い上位3位までの貿易相手国は全て同じ地域の政治・経済統合体の加盟国となっている。

入試に向けての学習アドバイス

都立高入試の社会は少し易くなったとはいえ、他県の問題よりもはるかに難しい。さらに、今年は完全解答の問題と記述問題が増加し、あやふやな知識では正解できなくなった。中1・中2のうちに、地理も歴史も公民も、一度覚えたら二度と忘れないこと。それが他の受験生に差をつけて合格が狙える最短の近道だ！